

繰り上がりのかき方

かけ算の繰り上がりのかき方で、繰り上がった数を小さく書いて計算すると、たし算するとき、また、たしてしまうというまちがいが多くあることに気がついた。そこで、かく場所をどうするかをいろいろ考えてみた。

1. 計算式の上にかく。→たし忘れが出てくる。
2. 計算式の右か左にかく。→位をまちがえる場合がある。
3. 小さく書いた数字を斜線で消す。→消し忘れが出てくる。

どれもうまくいかない。そこで重ねてかいたらどうかという考えになった。

$$\begin{array}{r}
 87 \\
 \times 43 \\
 \hline
 261 \\
 348 \\
 \hline
 3961
 \end{array}
 \longrightarrow
 \begin{array}{r}
 87 \\
 \times 43 \\
 \hline
 2\cancel{6}1 \\
 348 \\
 \hline
 3741
 \end{array}$$

こんな書き方は、どうだろうか。実際に子どもにやらせてみると、計算まちがいは、激減した。また、繰り上がりを指を使ってやるという方法もかなり有効である。

すると、たし算の繰り上がりをかき場所も上にかくという指導をしていたのだが、下にかくほうがよさそうである。

$$\begin{array}{r}
 \overset{1}{5}\overset{1}{8}7 \\
 + 134 \\
 \hline
 721
 \end{array}
 \Longrightarrow
 \begin{array}{r}
 587 \\
 + 134 \\
 \hline
 7\underset{1}{2}1
 \end{array}$$

たし算の場合の繰り上がりも指を使う方法が、有効である。たし算の場合の繰り上がりは、「1」だけであるからである。

$$\begin{array}{r}
 12 \\
 \times 34 \\
 \hline
 408
 \end{array}$$

